

立命館大学大学院
2022年度実施 入学試験
博士課程前期課程
文学研究科
人文学専攻・東洋史学専修

入試方式	実施月	コース	専門科目		外国語 ※英語・中国語(漢文・現代中国語) のうちから1科目を選択		
			ページ	備考	科目	ページ	備考
一般入学試験	9月	研究一貫	P.1～		英語	×	
					中国語	P.3～	
	2月	研究一貫	P.6～	外国人留学生入試と共通	英語	P.8～	
					中国語	P.10～	一部窓口公開のみ (WEB非公開)
	9月	高度専門	×				
	2月		P.6～	外国人留学生入試と共通			
	9月	研究一貫	×				
	2月		×				
社会人入学試験	9月	高度専門					
	2月						
	9月	研究一貫	×				
	2月		×				
外国人留学生入学試験	9月	高度専門	×				
	2月		P.6～	一般入試と共通			
	9月	研究一貫	×				
	2月		P.6～	一般入試と共通			
学内進学入学試験	9月	研究一貫					
		高度専門					
学内進学入学試験 (大学院進学プログラム履修生対象)	2月	研究一貫					
		高度専門					
APU特別受入入学試験	9月	研究一貫					
		高度専門					

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

立命館大学大学院
2022年度実施 入学試験
博士課程後期課程

文学研究科
人文学専攻・東洋史学専修

入試方式	実施月	外国語		
		科目	ページ	備考
一般入学試験	2月	英語	×	
		中国語 (漢文・現代中国語)	×	
外国人留学生入学試験	9月			
	2月			
学内進学入学試験	2月			

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2023年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2022年9月10日

博士課程前期課程 人文学専攻
東洋史学専修

「専門科目」

全 4 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



2023 年度入学試験（2022 年 9 月実施）

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (東洋史学専修)	前期課程	専門科目	□研究一貫		

I. 受験者の研究テーマについて、学界における研究状況を整理し、それらをふまえた上で
受験者自身の研究の特徴や独自性について述べよ。(40 点)

II. 次のテーマから 1 つを選び、中国史全体におけるその特質と意義を記せ。(60 点)

① 自然環境の変動と国家の興亡について ② 政治と宗教との関係について

III. 次のテーマから 5 つを選び、知るところを記せ。(各 20 点)

- (1) 河姆渡遺跡 (2) 易姓革命 (3) 周公 (4) オルドス (鄂爾多斯)
- (5) 赤眉の乱 (6) 柔然 (7) 雲崗石窟 (8) 玄武門の変 (9) 唐律疏議
- (10) 唐宋八大家 (11) 柴榮 (12) 三司 (13) 大都 (14) 永樂帝
- (15) ジュンガル部 (準噶爾部) (16) 教案 (17) 上海クーデター (四一二事件)
- (18) 百花齊放・百家争鳴 (19) 中越戦争 (20) 趙紫陽

※ 答案用紙に問題番号を表記し、スペースを自由に配分して解答を作成しなさい。

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2023年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2022年9月10日

博士課程前期課程 人文学専攻
東洋史学専修

「外国語」(中国語)

全 4 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (東洋史学専修)	前期課程	外国語 (中国語)	□研究一貫		

問 1 次の漢文を書き下し文に直しなさい（留学生は現代日本語に直しなさい）。なお、傍線は固有名詞、波線は書名。

隗炤，汝陰人也。善於易。臨終，書版授其妻曰：「吾亡後當大荒窮，雖爾，慎莫賣宅也。卻後五年春，當有詔使來頓此亭，姓龔，此人負吾金，即以此版往責之，勿違言也。」炤亡後，其家大困乏，欲賣宅，憶夫言輒止。期日，有龔使者止亭中，妻遂齎版往責之。使者執版惘然，不知所以。妻曰：「夫臨亡，手書版見命如此，不敢妄也。」使者沈吟良久而悟，謂曰：「賢夫何善？」妻曰：「夫善於易，而未嘗爲人卜也。」使者曰：「噫，可知矣！」乃命取蓍筮之，卦成，撫掌而歎曰：「妙哉隗生！含明隱迹，可謂鏡窮達而洞吉凶者也。」於是告炤妻曰：「吾不相負金也，賢夫自有金耳，知亡後當暫窮，故藏金以待太平，所以不告兒婦者，恐金盡而困無已也。知吾善易，故書版以寄意耳。金有五百斤，盛以青甕，覆以銅柙，埋在堂屋東頭，去壁一丈，入地九尺。」妻還掘之，皆如卜焉。

（晋書卷九十五列伝第六十五隗炤）
（房玄齡等撰《晋書》、中華書局、一九七四年）

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (東洋史学専修)	前期課程	外国語 (中国語)	<input type="checkbox"/> 研究一貫		

問2 次の文章を現代日本語に直しなさい。

所谓避讳就是不直称君主或尊长的名字，凡遇到和君主、尊长的名字相同的字面，则用改字、缺笔等办法来回避，其结果往往造成语文上的若干混乱（避讳起源于秦以前，汉初尚宽，后来渐渐严格起来）。

试举一些例子：

汉高祖名邦，“邦”改为“国”。《论语·微子》“何必去父母之邦”，汉石经残碑作“何必去父母之国”。

汉文帝名恒，“恒”改为“常”。恒山被改为常山。

唐太宗名世民，“世”改为“代”或改为“系”，“民”改为“人”。“三世”称为“三代”，《世本》改称《系本》，柳宗元《捕蛇者说》把“民风”写成“人风”。

唐高宗名治，“治”改为“理”，或改为“持”或“化”。韩愈《送李愿归盘谷序》把“治乱不知”写成“理乱不知”；李贤把《后汉书·曹褒传》“治庆氏礼”改成“持庆氏礼”，把《后汉书·王符传》“治国之日舒以长”改成“化国之日舒以长”。

清圣祖（康熙）名玄烨（yè），“玄”改为“元”，“烨”改为“煜（yù）”。我们读清人著作或清刻的古书时应该注意，许多地方本来应该是玄字的，如玄鸟、玄武、玄黄等，都写成了元。

上古不讳嫌名。所谓嫌名是指和君主或尊长的名字音同或音近似的字。例如汉和帝名肇，“肇”“兆”同音，由于不讳嫌名，所以不改变“京兆”字。三国以后渐渐避嫌名了，隋文帝的父亲名忠，因为“忠”“中”同音，所以连带避“中”字，“中”改为“内”，官名“中书”改为“内史”，就是讳嫌名的例子。

由于避讳，甚至改变别人的名或姓。汉文帝名恒，春秋时的田恒被改称田常；汉景帝名启，微子启被改称微子开；汉武帝名彻，蒯（kuǎi）彻被改称蒯通；汉明帝名庄，庄助被改称严助。刘知幾著《史通》，后人因避唐玄宗李隆基讳（基、幾同音），改为刘子玄所著（子玄是刘知幾的字）。到了清代，为了避清圣祖讳，又恢复刘知幾著，但是当提到刘子玄的时候，则改称刘子元。地名、官名等也有不少由于避讳而改变的，这里不一一举例了。

以上说的是避讳改字。至于避讳缺笔，则是到唐代才有的。例如避唐太宗李世民讳，“世”字作“卅”；避宋真宗赵恒讳，“恒”字作“𢆶”；避清世宗讳，“胤”字作“胤”；避清宣宗讳，“宁”字作“寔”；避孔子讳，“丘”字作“丘”，等等。

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2023年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2023年2月11日

博士課程前期課程 人文学専攻
東洋史学専修

「専門科目」

全 3 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



2023 年度入学試験（2023 年 2 月実施）

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (東洋史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度専門		

I. 受験者の研究テーマについて、学界における研究状況を整理し、それらをふまえた上で 受験者自身の研究の特徴や独自性について述べよ。(40 点)

II. 次のテーマから 1 つを選び、中国史全体におけるその特質と意義を記せ。(60 点)

① 時代区分論 ②大運河と海運

III. 次のテーマから 5 つを選び、知るところを記せ。(各 20 点)

- (1) 春秋戦国時代の楚国 (2) 荀子 (3) 大月氏 (4) 五銖銭 (5) 楽浪郡 (6) 拓跋国家
 (7) ソグディアナ (8) 義浄 (9) マニ教 (10) ダウ船 (11) 北面官 (12) 文治主義 (13) 陸九淵
 (14) イブン=バットゥータ (15) 金属活字 (16) 千戸制 (17) 明律 (18) 郷紳 (19) 関東軍
 (20) 日中国交正常化

※答案用紙に問題番号を表記し、スペースを自由に配分して解答を作成しなさい。

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2023年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2023年2月11日

博士課程前期課程 人文学専攻
東洋史学専修

「外国語」(英語)

全 3 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 選択した外国語の辞書(英語辞書)の持込は認める
(電子辞書・専門用語辞書は不可)
- ② 上記①の他には、筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (東洋史学専修)	前期課程	外国語 (英語)	研究一貫		

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。解答は、2 枚目と 3 枚目の答案用紙に、それぞれ記入すること。なお、問題文中にピンイン（拼音）で表記されている固有名詞は、解答する際すべて漢字で表記するように。

Classical and historical studies provided frameworks in Qing China for the habits, interests, and values that constituted the inherited ways of thinking and behavioral routines of literati scholar-officials. Each classical text accumulated a history of its effects and interpretations, which became a constituent part of the *raison d'être*¹ of the dynasty. “Learning of the Way” (*daoxue*) as imperial ideology during the late empire represented the institutionalization of “truth” by state authorities, who selected and interpreted commentaries on the Classics and Dynastic Histories to present acceptable views of man, society, and the world that would contribute to the consolidation² of dynastic authority. Because of the priority of the Classics as guidelines for political authority and dissent³ against that authority, [1] Ming and Qing literati were accepted as interpreters and transmitters of the classical legacy.

The mastery of classical studies for political discourse in imperial China was a prerequisite⁴ for the rise of elite intellectual trends in every dynasty. [2] After the formation of imperially sanctioned New Text Confucianism during the Former Han dynasty (206 b.c.–a.d. 8), politics in succeeding dynasties usually was expressed through the language of the Classics or Dynastic Histories. Idealistic scholar-statesmen, cynical political opportunists, and even autocratic rulers channeled their political views through the controlled medium of ritual protocol, classical sanctions⁵, and historical precedents⁶. The millennial connection between the Classics of antiquity and premodern Chinese political discourse, whether reactionary, moderate, or radical, suggests the power these texts had over political behavior and expression in imperial China. Political reformism and classical iconoclasm⁷ often went hand in hand. Classical philology was necessary as a form of literati expertise both to endorse⁸ imperial policy or to gainsay⁹ it by charging that certain classical texts were misinterpreted or forgeries.

Control of classical interpretation correlated with dynastic power. Literati scholars and officials were indispensable partners of the dynasty. Setting a precedent that lasted from 1313 until 1905, [3] Mongol rulers during the Yuan dynasty (1280–1368) were prevailed upon by their literati advisors to install the interpretations of the great Song philosophers Cheng Yi and Zhu Xi as the orthodox “Cheng-Zhu” guidelines for the imperial examination system. Ming and Qing emperors followed suit, similarly persuaded that the Cheng-Zhu school provided the most acceptable justification for their rule. Sung dynasty “Learning of the Way” became the vision of the highest values in the late empire.

[4] The Cheng-Zhu orthodoxy was increasingly challenged beginning in the sixteenth century, however. Criticism accelerated during the seventeenth and eighteenth centuries. A tug of war¹⁰ developed among literati in and outside of government over how the Classics and Four Books should be evaluated. The Classics were read and interpreted with new eyes and new strategies. Due in part to the Jesuit impact, literati in the seventeenth century reevaluated the classical canon in light of ancient natural philosophy and Western astronomy.

問1 下線部〔1〕を含む段落の内容を踏まえ、明清時代の知識人が果たした役割について、具体的に説明せよ。

問2 下線部〔2〕を日本語に訳せ。

問3 下線部〔3〕を日本語に訳せ。

問4 下線部〔4〕を含む段落の内容を踏まえ、16～18 世紀の中国における儒学のあり方について、具体的に説明せよ。

語注 1. *raison d'être* [F]: 存在理由 / 2. consolidation: 統合すること・強固にすること / 3. dissent: 意見の相違・不同意
4. prerequisite: あらかじめ必要な / 5. sanction: (道徳や法などの) 拘束力 / 6. precedent: 前例 / 7. iconoclasm: 因習打破
8. endorse: 是認する・支持する / 9. gainsay: 否定する・反駁する / 10. A tug of war: 綱引き・勢力争い

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2023年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2023年2月11日

博士課程前期課程 人文学専攻
東洋史学専修

「外国語」(中国語)

全 4 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (東洋史学専修)	前期課程	外国語 (中国語)	<input type="checkbox"/> 研究一貫		

問 1 次の文章は南朝宋（劉宋）に仕えた沈慶之の列伝である。この漢文を書き下し文に直しなさい（留学生は現代日本語に直しなさい）。なお、傍線は固有名詞。

慶之復率衆軍討幸諸山犬羊蠻，緣險築重城，施門櫓，甚峻。山多木石，積以爲礪。立部曲，建旌旗，樹長帥，鐵馬成羣。慶之連營山下，營中開門相通，又命諸軍各穿池於營內，朝夕不外汲，衆以防蠻之火。頃之風甚，蠻夜下山，人提一炬以燒營。營內多幔屋及草菴，火至輒以池水灌滅，諸軍多出弓弩夾射之，蠻散走。慶之令諸軍斬山開道攻之，而山高路險，暑雨方盛，乃置東岡、蜀山、宜民、西柴、黃徹、上麥六戍而還。蠻被圍守日久，並饑乏，自後稍出歸降。慶之前後所獲蠻，並移京邑，以爲營戶。

（注）礪……石が重なるさま。『宋書』卷七十七 沈慶之伝、中華書局、一九七四年

2023 年度入学試験（2023 年 2 月実施）

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (東洋史学専修)	前期課程	外国語 (中国語)	<input type="checkbox"/> 研究一貫		

問 2 次の文章を現代日本語に直しなさい。

この問題は、公開していません。